

民生教育委員会行政視察報告書

1 視察期間

- (1) 令和4年6月1日 1日間（オンライン会議方式）
- (2) 令和4年7月26日 1日間（オンライン会議方式）

2 視察都市

- (1) 掛川市
- (2) 兵庫県加西市

3 参加者

秋山勝則委員長、小栗宏之副委員長、加藤公人委員、鈴木弥栄子委員、小柳貴臣委員、
加藤文重委員、鈴木喜文委員、高梨俊弘委員、寺田幹根議長

同席 朝倉直健康増進課長、土屋智子健康支援グループ長、青島やよい地域保健グループ長

事務局 三上秀主査

4 視察事項

- (1) 高齢社会における介護・医療費の抑制策について（掛川市・加西市）

5 考察

次のとおり

I 掛川市 人口：115,943人・面積：265.69㎢（令和4年4月1日現在）

1 高齢社会における介護・医療費の抑制策について

(1) 概要

掛川市は、袋井市と共同し、平成25年5月に全国初の自治体病院の統合を果たし、中東遠総合医療センターを開設、現在に至るまで、在宅医療、在宅介護等の地域拠点となる地域健康医療支援センター「ふくしあ」や健康医療の中核ゾーン「希望の丘」を整備し、医師会等その他関係機関と連携した地域包括支援体制を推進している。

また、掛川市議会では、今後、更に進展する高齢化社会において、楽しく充実した人生を送るためには、市民一人一人が健康づくりに取り組み、尊厳ある人生の最期についても、個人の意思が尊重される環境を整えることが大切である、という認識の下、安心して保健医療サービスを受けることができる地域完結型の医療体制を確立するとともに、健康な生活と長寿を享受する健康長寿社会を形成することを目指し、平成27年に「地域医療基本条例制定特別委員会」を設置、平成28年には、議員発議により、「掛川市健康医療基本条例」を制定、施行した。

(2) 考察

掛川市議会は、特別委員会を設置し、掛川市健康医療基本条例の内容を検討する過程で、当局と、かなりの回数の密度の濃い勉強会、意見交換等を実施しており、本委員会においても、当局との意見交換、委員会での議論を充実させていく必要性を感じた。

市民の声を条例に組み込んでいく方法のひとつとして、NPO等の市民活動団体との意見交換等を積極的に行っており、本委員会においても、必要な取組であることを再認識した。

同じ中東遠地域であり、掛川市も本市と同様に、糖尿病予備軍が多く、また、医師不足を課題としていることなどについて、認識を共有できた。

条例の制定に終わることなく、市議会主催のシンポジウムを開催するなど、議会が切れ目なく、市民へ取組を働きかけていることがすばらしいと感じた。

人生の生き方、最終段階をどのように迎えたいかを共有しながら、それを実現していくためのACP（アドバンス・ケア・プランニング）をととても大切に考え、市民に広めていく取組が、本市においても欠かせないと感じた。

II 加西市 人口：42,494人・面積：150.98km²（令和4年4月1日現在）

1 高齢社会における介護・医療費の抑制策について

(1) 概要

加西市は、平成25年10月に、市長が、スマートウエルネスシティ首長研究会に参加し、これ以降、ウエルネス（健幸）をまちづくり政策の中核に据え、健康に関心のある層だけが参加する政策から脱却し、市民誰もが住めば自然と歩いてしまうまちづくり、生活習慣病予防や寝たきり防止を可能とするまち（健幸都市）づくりを目指していくことを表明、平成27年4月、この理念を具現化するため、「加西市歩くまちづくり条例」を施行し、行政、市民が一体となって「健幸都市」の実現に向けて取り組んでいる。

(2) 考察

加西市は、歩くまちづくり条例における取組のなかで、市による運動ポイント事業の導入に加え、民間企業の協賛を得て、イオン健康ポイント事業が並行して展開されるなど、健康を推進しながらも市内経済を活性化する仕掛けが見られ、また、歩きやすい環境の整備として、歩行者や自転車利用者に配慮した道路整備、防犯灯の増設、公共交通網の充実など、条例を起点に、二重三重の相乗効果が現れており、本市においても、大いに参考とすべき工夫だと感じた。

一方で、歩くということに焦点をあてた条例だが、条例がなくても、健康づくり運動ポイント事業として、事業としての取組が可能な内容とも感じた。条例としては、もっと包括的な内容を規定して、実行段階において、事業に落とし込んでいく方法が考えられると感じた。

また、ウォーキングコースや、「ポケモンGO」の活用など、市民の提言や意見を反映している取組が見られ、本市においても、市民や市民活動団体の意見を反映していく仕組みづくりが必要と感じた。

加西市は、運動ポイント事業等の実施により、市民の歩く姿が多くみられるようになり、まちの景色が変わったとのことである。本市においても、条例の制定をきっかけとして、景色が変わるような変化を起こしていきたいと感じた。